

2026年度(令和8年度)

デラウェア防除暦

散布の際はラベルをよく読み記載内容に基づいてご使用ください。
展着剤はハイテンパワーを基準としております。

JA庄内たがわ ぶどう部会
令和7年12月16日登録反映分にて作成

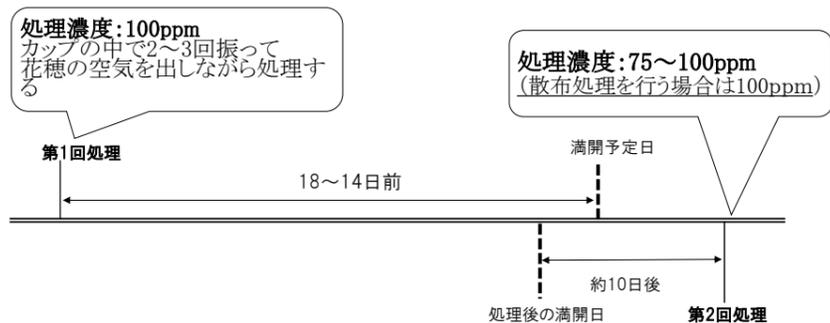
回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	倍率 (100%当り薬量)		使用時期 (収穫前日数)	使用回数 (以内)	10a当 散布量	摘要
1	休眠期 (3月下旬 ~4月上旬)	晩腐病、黒とう病 ブドウトラカミキリ	デランフロアブル	200倍	500ml	休眠期	1	200% 散布	1.薬剤散布前に粗皮削りを徹底する。 2.前年房の取残し・巻きひげなどは晩腐病防除に重要であるから必ず除去する。
			トラサイドA乳剤	300倍	333ml	発芽前 (休眠期)	2		
2	発芽前 (前回より7~10日後以降) (4月下旬)	(カイガラムシ類) サビダニ類 黒とう病、晩腐病	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml	冬期	-	200% 散布	1.樹全体を洗うようにていねいに散布する。 2.晩腐病対策のため枝かけ具はこの時期から5月下旬までにかけて、その後風などでずれた場合は効果が劣るので随時手直しする。 3.サビダニ類・褐斑病の多い園では20倍石灰硫黄合剤を必ず散布する。
			石灰硫黄合剤	20倍	5% (水95Lに対し)				
			又はベンレート水和剤	200倍	500g				
特別 散布	展葉初期 (5月上・中旬)	フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 コナカイガラムシ類	展着剤(ハイテンパワー)	5,000倍	20ml	-	-	200% 散布	1.ナミハダニの発生を防止するため、5月下旬以降園地の下草刈りを徹底する。 2.削り取った粗皮とせん定枝は5月下旬までに適切に処分する。
			ベストガード水溶剤	1,000倍	100g				
3	展葉5~7枚	ハト病、黒とう病、晩腐病、うどんこ病、灰色かび病 チャノキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ、フタテンヒメヨコバイ、ブドウサビダニ	テーク水和剤	1,000倍	100g	45日前まで	2	250% 散布	1.雨よけテントの谷間の果房は6月上旬までにかさかけを終了する。 2.着色障害が発生しやすい場合は、この回以降5回目まで、マンガン欠乏症対策としてエイトビー1000倍とバイカルティール1000倍を混用して散布する。
			グレースシアフロアブル	4,000倍	25g	7日前まで	2		
4	6月上旬 (開花直前)	晩腐病、灰色かび病 ハダニ類	スイッチ顆粒水和剤	2,000倍	50g	30日前まで	2	300% 散布	1.ハウス栽培では、多湿にならないよう換気を十分に行う。 2.コウモリガ(ハチマキムシ)の加害の見られる園では、見つけ次第捕殺し幹周辺の清掃を行う。以後、園地を見廻り見つけ次第捕殺する。
			スターマイトフロアブル	2,000倍	50ml	14日前まで	1		
5	6月中旬 (落花直後) ※果粒径が 3mmまでを 目安とする	晩腐病、褐斑病 灰色かび病、ハト病 カイガラムシ類、アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、コナガメシ類成虫	アミスター10フロアブル	1,000倍	100ml	30日前まで	3	300% 散布	1.この時期以降は散布むらのないようにていねいに散布する。 2.アミスター10フロアブルは、りんご及びトマトに葉害が発生する恐れがあるので注意する
			モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	50g	14日前まで	3		
6	6月中下旬	ハト病	ランマンフロアブル	2,000倍	50ml	14日前まで	3	250% 散布	1.降雨が多く灰色かび病が懸念される場合は谷間周辺に1,000倍パワード顆粒水和剤(収穫14日前まで/2回以内)を追加散布する。 2.カイガラムシ類の発生が見られる場合やアザミウマ類の発生が懸念される場合はトランスフォームフロアブル1,000倍(収穫3日前まで/3回以内)を散布する。 3.ハダニ類、ブドウサビダニの発生が多い場合は1,000倍マイトコーネフロアブル(収穫21日前まで/1回)を散布する。
特別 散布	7月上旬	ハト病 褐斑病 さび病	展着剤 Zボルドー	500倍	200g	発病前~ 発病初期	-	300% 散布	1.露地栽培において、さび病、ハト病の多発する園では、7月中下旬にも500倍Zボルドーを10aあたり300%以上棚上から散布する。 尚、雨が多い場合には8月上旬も実施する。
7	7月10日~ 15日	晩腐病、褐斑病 灰色かび病、さび病 うどんこ病、黒とう病 チャノキイロアザミウマ	オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日まで	3	250% 散布	1.オンリーワンフロアブル、テルスターフロアブルは果粉溶脱の恐れがあるため、散布薬量は少なめとし、十分攪拌後、重複しないように散布する。 2.コナガメシ類・チャノキイロアザミウマの発生が多い園では、2000倍アディオソ水和剤(収穫7日前まで/5回以内)を散布する。 3.晩腐病の被害粒は、二次感染防止のため見つけ次第つみとる。
			テルスターフロアブル	4,000倍	25ml	14日前まで	1		
特別 散布	7月中旬~ 下旬	ハダニ類	コロマイト水和剤	2,000倍	50g	7日前まで	2	200% 散布	1.ハダニの発生が多い場合に単用散布する。 但し果粉溶脱の恐れがあるため、散布薬量は少なめとし十分攪拌後重複散布しない。
8	収穫直後	さび病、ハト病 (晩腐病) フタテンヒメヨコバイ	ICボルドー66D	50倍	2kg	発病前~ 発病初期	-	300% 散布	1.さび病・ハト病(晩腐病)防除のため、収穫直後にこの回の防除を必ず実施する。 また、発生が多い園では、9月上中旬にもICボルドー66Dを単用散布する。
			スミチオン水和剤40	1,000倍	100g	90日前まで	2		

ラベルを必ず確認し、登録内容(倍率、収穫前日数、回数など)を遵守してください！また器具の洗浄は十分に行ってください。
防除暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

住宅地における農薬使用について

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については極力、農薬散布以外の方法をとります。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項(散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮)などの遵守に努め、住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。

■デラウェアのジベレリン処理方法



■無種子化を補助する植物成長調整剤

これらの薬剤だけに頼ることなく、芽かき・摘房・摘粒などの基本的な栽培管理を徹底し、ばらつきの少ない健全な樹体づくりをこころがける。

薬剤名	フルメット液剤	ストマイ液剤20
使用目的	ジベレリン処理適期幅拡大	無種子化
使用時期	満開予定日18~14日前	満開予定日14日前 ~開花始期
使用方法	ジベレリンに加用花房浸漬(ジベレリン2回目処理は慣行)	散布(200~700ℓ/10a) 花房浸漬 花房浸漬(1回目ジベレリン処理と併用)
希釈倍率	1~5ppm	1,000倍(200ppm)
注意事項	着粒過多による裂果、果実の着色不良、糖度低下となる場合がある。	※ジベレリンに加用する場合、満開予定日14日前に処理する。
使用回数	1回	1回

■着色障害防止

- 着色障害は土壌PHが高い場合に出やすく、土壌改良資材投入前に土壌PH測定を行う。
- マンガン欠乏による着色障害防止対策として、軽症園では第2回目ジベレリン処理時に処理液2リットル当たり硫酸マンガン14.5mlを加用する。重症園では、それに加えて処理2~3日前に水200リットル当たり硫酸マンガン730ml加えた液を10a当たり200~300リットルを散布します。

■ハダニ類防除のポイント

- 薬剤散布の3日程度前に下草刈を行うことによりダニ防除の効率が高まる。
- 開花期(6月)頃の気温の上昇に伴いハダニ類の発生が増えるため、普段からの観察を心がけ発生初期の防除に努める。

注意事項

果粉溶脱の恐れがあるため、防除を実施する際はスズラン噴口を使用しましょう。

